

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 9 回新相模原市観光振興計画推進会議				
事務局 (担当課)		経済部商業観光課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 3 6 (直通)				
開催日時		平成 2 5 年 7 月 2 日 (火) 午前 1 0 時 3 0 分 ~ 午後 0 時 3 0 分				
開催場所		相模原市立環境情報センター 2 階 学習室				
出席者	委員	8 人				
	その他	0 人				
	事務局	1 3 人 (商業観光課長、他 1 2 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 議題 議題 1 第 8 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について 議題 2 新相模原市観光振興計画の推進について (1) 平成 24 年入込観光客数及び観光消費額の状況について (2) 平成 24 年度の主な事業実績について (3) 平成 25 年度の事業・取組みについて (4) 地域別計画の推進状況について 議題 3 新相模原市観光振興計画の中間見直しに係る実績等の確認状況について 3 その他 4 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開会

内藤会長あいさつ

2 議題

議題 1 第 8 回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について

議題 2 新相模原市観光振興計画の推進について

(1) 平成 24 年入込観光客数及び観光消費額の状況について

(2) 平成 24 年度の主な事業実績について

(3) 平成 25 年度の事業・取組みについて

(4) 地域別計画の推進状況について

議題 3 新相模原市観光振興計画の中間見直しに係る実績等の確認状況について

議題 1 から 3 について、第 9 回新相模原市観光振興計画推進会議資料により事務局から一括して説明を行った。

また、神奈川県観光課副課長・田中委員より神奈川県観光振興計画の概要について、相模原市の各観光主管課長から観光振興の取組みについて、それぞれ次のとおり補足説明等がなされた。

補足説明等

『神奈川県観光振興計画の概要について』神奈川県観光課

平成 22 年度から 24 年度にかけての神奈川県観光振興計画があり、昨年度、計画の最終年度ということで、一年間かけて見直しを行い、25 年度からスタートする新たな神奈川県観光振興計画を策定したところである。

計画の一つ目のポイントは、近年増えている農漁業体験やドラマ・アニメ、地域ならではの食などテーマ性・地域性の強い観光資源を取り入れた旅行が増えていることから、今まで観光資源として捉えていなかった様々な分野についても観光資源として捉えて、取組みを進めていくことである。

二つ目のポイントとしては、観光とは商業や工業、農業など様々な分野の産業が関連することから、国内外からの観光需要を取り込んでいくことで、経済を回していくという考え方をもって取組みを進めていくことである。

3 つ目のポイントとして、観光は様々な分野が関わることから、県庁内でも関係機関と十分に連携しながら取組みを進めていくことである。

この計画は、神奈川県総合計画「かながわグランドデザイン」を補完する個別の計画という位置づけであり、平成 25 年度から 27 年度までを計画期間としている。

「観光立県かながわ」の実現に向けた課題として特に意識しているのが、新しい観光スタイルのニーズを的確に捉えたうえで、神奈川の魅力を最大限に活かした取り組みを進めていくことであり、そのためには、隠れた神奈川の資源を活用した魅力ある地域づくりを引き続き進めていくことが大切である。

その次の大きな課題としては、首都圏から近いという神奈川の立地特性に基づく宿泊観光客の少なさであり、消費に結びつかないことである。観光振興に資する消費を高めていくには、観光消費が期待される宿泊を伴う滞在型観光、周遊型観光についても取り組みを進めていく必要がある。

3 つ目の課題としては、外国人観光客の方に来ていただけるような施策の強化であり、海外プロモーション活動に合わせて、県内への宿泊・滞在に結び付けていく取り組みが必要である。

神奈川の観光の将来像としては、上位施策の「かながわグランドデザイン」の将来像に基づき、「何度も訪れたい神奈川」「外国人を引きつける魅力あふれる神奈川」「観光で元気になる神奈川」の 3 つを定めている。

その将来像を実現するための具体的な取り組みとして、それぞれ重点プロジェクトを定め、重点プロジェクトを支える施策として 3 本の柱を定めているというのが施策体系となっている。

各将来像に応じた入込観光客数や外国人述べ宿泊者数、観光消費額などを目標として定め、平成 27 年度での達成に向けて取り組みを進めていきたい。

この計画の推進体制として、知事をトップとする庁内推進組織である神奈川県観光戦略本部があり、県や民間の観光関係機関で構成される観光立県かながわ推進連絡会議と連携を取りながら、観光立県かながわの実現に向けた取り組みを推進していくものである。

『相模原市の取り組み』相模原市商業観光課

相模原市観光協会について、本市のシティセールスを一層推進するため、観光人材育成や情報発信などの観光施策を、市と両輪で展開していくための存在として、また、民間ノウハウの活用を期待して、平成 25 年 3 月 1 日付で一般社団法人として独立をした。

事務所を緑区橋本に置き、事務局の職員体制は、事務局長 1 名、常勤職員 2 名、嘱託職員 2 名となっている。

市の特産品等の紹介や販売、観光情報の発信拠点として、3 月 15 日にオープンしたアンテナショップ sagamix を収益事業として運営しており、日々の売上については概ね目標に達している状況である。

フィルムコミッション事業についても、今年4月から市より受託して実施しており、映像制作への支援を通じたシティセールス及び経済活性化に寄与している。

その他、キャンプ場の管理運営を市から受託するほか、イベントへの出展やホームページ・観光インフォメーションコーナーの管理運営などを通じた観光宣伝事業、各種イベントや研修会の開催などを通じた観光振興事業を実施している。

法人化後、4か月ということなので、諸課題も多いところであるが、将来的には旅行事業、コンベンション事業、広告代理店業務などの収益事業を中心とした事業の拡大を図りたいと伺っている。

『城山地域の取り組み』相模原市城山経済観光課

水源地域交流の里づくり事業について、例年実施している事業であり、今年度も2回実施する予定で準備を進めている。

今年度、城山湖周辺地域観光振興計画の策定に向けて取り組みを進めているエリアは、城山地域の中でも特に観光資源の豊富な地域であり、地域のまちづくり会議でも観光部会が設置されるように、この地域での観光振興を強化していきたいとの考えを強く持っている地域である。

この計画では、城山湖から高尾山につながるハイキングコースが出来上がっていることから、高尾山の来訪者を城山に呼び込むというルートの強化を中心に据えながら策定していきたいと考えている。

『津久井地域の取り組み』相模原市津久井経済観光課

「つくい日帰り体験ツアー」については、だいぶ人気が出てきているツアーであることから、現在、つくい逸店昼市に合わせて開催しているものを、更に拡大して展開することを実施主体である津久井観光協会や津久井商工会に提案したいと考えている。

地域別計画について、津久井地域は4箇所策定しているが、まだ策定していない地域もあることから、地域の盛り上がり期待して、話ができれば進めたいと考えている。

『相模湖地域の取り組み』相模原市相模湖経済観光課

小原宿の活性化については、古くから取り組みを進めているところであるが、地域の方々は熱意を持って小原宿の活性化に取り組んでいるところである。

相模湖湖畔地域については、一昨年より地域活性化の推進事業を進めてきており、昨年はイルミネーションと併せて音楽イベントを開催したところであるが、今年度についても、8月に遊覧船での相模湖観光を実施しながら、新たな観光客の誘致に努めていきたいと考えている。

『藤野地域の取り組み』相模原市藤野経済観光課

「ふじの自産自消を楽しむ会」事業については、緑区の地域活性化事業交付金を受けて実施している事業であり、遊休地を活用して農産物を栽培し、収穫し、食するところまでの一連の作業を行うもので、地域の方々と市内外の方との交流を図りながら地域の活性化も図れる事業と捉えている。

平成 25 年度は「ニューツーリズム推進事業」「自然体験活動指導者育成事業」を新たな取り組みとして実施していく。

「ニューツーリズム推進事業」については、国の緊急雇用創出事業のうち起業支援型雇用創造事業を活用した事業であり、自然・文化・歴史などのほか、藤野地域の特性でもある「アート」の要素も加えた体験・交流型プログラムを企画・商品化して誘客を図りたいと考えている。

「自然体験活動指導者育成事業」については、市の協働事業提案制度を活用するもので、既に自然体験活動指導者の認定を受けた方々が立ち上げた団体である「やまなみ CONE ミーティング」と市が協働して人材の育成に取り組む事業であり、事業の実施によって、近年増えている体験観光・体験学習に対応するための専門知識を持った人材を育成していきたいと考えている。

藤野北部地域観光振興計画は藤野地域としては初の地域別計画となるものであるが、この計画は、既に和田の里みちくさの会などの地域団体が様々な地域活性化事業に取り組んでいるものを、そのエリアを拡大して佐野川、沢井も含めた陣馬・高尾山エリアの計画にするという視点で策定するものである。

主な意見等

各委員からの主な意見及び質疑応答は、次のとおり。

小原宿活性化推進協議会は平成 18 年度に計画を策定して、取り組みを進めているところであるが、活動を推進するためには、組織と地域の繋がりが大切であり、そのためには、地域に情報が伝わり、地域全員の力が結集することが必要であることから、今年度はそのあたりを意識した取り組みを進めていきたい。

小原宿本陣祭について、高齢化・少子化の時代の流れの中、小原の住民主体で進めることには限界があると感じていたが、住民集会での話し合いの中では、20 回の記念大会に向けて、「見て楽しむ、やって楽しむ、また来年も燃えるぞ」というスローガンを打ち立てるなど機運が高まってきており、来場者、主催者双方が楽しめるものを作り上げていかなければと感じている。

藤野で観光事業を進め、様々な観光客が訪れるようになってきており、街の様子も変化していくことになるが、地元で古くから住んでいる方々に対して、自信をもって説明ができるような変化にしていきたい。

計画の中には、早戸大滝や東海自然歩道の整備なども書かれている。高尾山からの誘客を図るうえで東海自然歩道の整備は必要。整備を働きかける場として、東海自然歩道連絡協会があり、現在、相模原市と津久井観光協会が参加しているが、発言力を高めるためには、旧町観光協会にも参加していただきたいと考えている。

相模原市は市域が広いので、個々の地域で力をつけていくことが大切であると感じている。相模原市観光協会としては、情報を収集し、速やかに発信をしていくように努めていきたいと考えている。

現在、大島・向原・小倉・葉山島地域観光振興推進協議会では、昨年引き続き2回目となるお米づくり体験を実施しているが、体力的な面、精神的な面でのシニア層の若返りが感じられる。財政面でも余裕がある世代と思われるので、この世代をターゲットとした事業展開は有効であると感じる。

地域住民をはじめとした事業に携わる方々の「おもてなし」の精神によって、観光地に対するイメージが相当変わってくるものであり、観光客のリピート率にも反映されてくる。

相模原には有名観光地のような代表的な資源はないが、自然や体験、農業といった資源が豊富にあり、また人口も多い地域であることから、地域の方々が熱意を持って取り組めば、可能性は広がると感じている。

情報発信については、資金を投じてでも様々な手法で実践すべきである。

圏央道が開通されたが、この類のものはタイミングが大切であり、その意味では、開通に合わせてパンフレットを作成したことはスピード感があってよいと思う。

これからは、各地域の観光資源、観光団体間の連携が大切である。例えば、作成された地図やパンフレットを見ても、その地域のところは書かれているが、周辺との連携を意識した作りになっていないものが多い。行政の境界などもあり困難なところはあるが、これからは連携を意識した印刷物の作成も検討する必要がある。

神奈川県でも圏央道の開通には注目をしており、これからは圏央道でつながる北関東地域をターゲットとした事業展開も検討している。

入込観光客数の調査をしているが、その内訳（市内・県内・県外など）の分析も可能であれば進めてもらいたい。

体験・交流・学習型の事業を積極的に展開するという方向性は推奨するところであるが、参加者アンケートを取り、満足度の調査を行って次回への反省に活かすというサイクルを欠かさず行うべきである。

計画というものは継続することに意義があるものと思っているので、現在進めている地域については、計画を策定し、事業を推進し、反省点を確認しながら拡充していくという取り組みを継続して実施していくことが、相模原の観光振興には大切なことである。

3 その他

次回の推進会議は10月～11月を目途に開催する。

意見等のまとめ

本日の推進会議における委員からの意見などについてまとめると次のとおり。

- ・事業の実施主体と地域との繋がりをいかにして緊密にしていくかが重要。
- ・観光振興も大切であるが、ひとつしかない資源が間違った方向で変化してしまわないように、地域団体が上手にパイプ役を務められるようにしたい。
- ・東海自然歩道連絡協会に各観光協会の参加を求めたい。
- ・シニア層をターゲットとした事業展開も有効である。
- ・おもてなしの精神でリピート率を高めていくことが重要。
- ・地域間・団体間・自治体間などでの連携を深めていくことが重要。
- ・入込観光客数調査の中で、どの地域から観光客が訪れているかを把握し、計画に反映されたい。
- ・体験交流型事業では、参加者の満足度を把握するアンケートを実施して、次回へ活かす取り組みを進められたい。
- ・地域別計画の推進にあたっては、継続して事業の拡大に努められたい。

4 閉会

秋本副会長あいさつ

新相模原市観光振興計画推進会議委員出欠席名簿

区 分	氏 名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者 ・ 専 門 家	内藤 錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
市 民 ・ N P O	小林 幸治	小原宿活性化推進会議	会長		出席
	内藤 久子	ふじの里山くらぶ	理事		出席
関 連 団 体	秋本 昭一	相模原市観光協会 (津久井観光協会)	理事 (会長)	副会長	出席
	高瀬 秀明	相模原市観光協会	事務局員		出席
	矢口 五郎	津久井地域商工会連絡協議会 城山商工会	事務局長		出席
民間事業者	山田 新一	神奈川中央交通(株)	相模原 営業所長		欠席
	向田 淳	(株)JTB コーポレートセルス 法人営業町田支店	支店長		出席
行政関係者	田中 陽子	神奈川県産業労働局 観光商業部観光課	副課長		出席